

ゆうかり放送委員会提供  
**ゆうかりに乾杯**  
第88放送の概要 (2014年11月22日放送)

**パーソナリティ**

さくら (安本久美子)  
タロウ (佃 由晃)  
なか (中嶋邦弘)  
あな (岸本幸恵)

**コアラさんの地域瓦版**

かりん (妹尾優香)



**ミキサー**

門ちゃん (門田成延)

**相談役**

わたかん (和田幹司)

**会計**

小山俊則

(CM) (CM) 神戸で乗って一番楽しいタクシーそれはペリーヌタクシーです。優しさと安全・安心を乗せて走ります。観光・ゼミ・研修・福祉輸送等乗れば心温まり、思わず笑みが浮かぶ、心を結び、出会いを作るタクシーです。本日は誇りと信頼の良質なサービスを提供する、ペリーヌタクシー様 (電話078-521-0046) の御協力を頂きました。

**1. ゲストコーナー (1): 東北訪問 (和田幹司、中嶋邦弘、佃 由晃)**

先月10月に、ゆうかり放送委員会のメンバーが3回目の東北を訪問したので、その状況を報告します。今年は和田とその友人、及び中嶋、佃の2つのグループに分かれて訪問しました。

**(1) 気仙沼、南相馬について**

和田さんは元の会社の先輩たちと、気仙沼と南相馬を訪問しました。本当に訪問してもよいのかと思っていた友人と、カメラを持って美味しい物を食べて、沢山買い物をして喜ばれる訪問をしようということで4人で行きました。初めに気仙沼の知人を訪ね、商店街の方3人と一緒に夕食をした。その後南相馬に伺い、家の書類を整理していると15年前の相馬馬追いのアルバム、資料が出てきたのでお渡しすることが出来た。宿泊は民宿の大ちゃんで、食事は大変おいしく、お土産も沢山買って来た。

気仙沼で美味しかったのは水揚げが始まったばかりの牡蠣で、食べていきませんかと言われ、その場で新鮮な牡蠣を頂き、更にムール貝をバケツ一杯頂き、その日の宿泊場所で蒸しておいしく頂きました。蒼天伝という酒蔵を訪問し、小さな酒蔵であるが帰宅後ネットでお酒を購入した。南相馬で宿泊した大ちゃんは、夜遅く着いたのでよくわからなかったが、朝起きると海岸に近い事がわかり、大ちゃんの庭先まで津波が到達した事を知った。初めて東北訪問したカメラマン、土産を沢山買った人、そしてもう一人は帰宅後精神的にきつかったという感想を漏らした。

今回訪問した仲間は、1年に1回2泊3日程度の旅行をしており、行く先を決める時に、東北は行ってはいけないのではと思っており、和田さんは、これは普通の人々の思いではないかと思った。震災の被災者である和田さんは、人が来てくれるだけで、覚えておいてもらい話をするだけで発散する部分があると思っており、友人はそのあたりを経験していない人であった。大ちゃんのすぐ近くは津波でガレキは撤去されたが、家の跡だけが残っている所であった。



気仙沼市唐桑の牡蠣



南相馬市 民宿大ちゃんで3人の友人

## (2) 福島市の県庁、及び関係団体を訪問

### ① 福島県観光交流局観光交流課 主幹・観光振興担当 菅原加代子さん

福島県の東日本大震災による被災は、地震・津波に加えて原発事故による被害は、県内全域あらゆる産業、あらゆる分野に及び、被害の全体像の把握すら困難な状況です。観光の現状は、震災直後よりは会津若松地域周辺を中心に回復しているものの、震災前の水準には戻っていない（約15%減）。

特に、教育旅行（修学旅行）の誘致に力を入れている。震災前は年間平均約70万人が来県していたが、最近データ平成25年度でも45%しか戻っていない。

菅原さんは、遠くの人々にとっては、福島ではまだ防御服を着てマスクをしているのかと考えておられる方もいらっしゃいますが、福島県は広く、一部を除いて普通に生活していることを、来て見てほしいとのことでした。

### ② NPO法人福島学グローバルネットワーク 理事長 黒澤文雄さん、事務局長 関根文恵さん

今年4月発足したNPO法人福島学グローバルネットワークでは、福島の復興の過程における課題と向き合い、新たな仕組み作りを考えるための学びを「福島学」とし、①県内の災害復興に関する取組みの視察研修、学習、交流のお問合せへの対応、②「福島学プログラム」を通じた教育活動を進める、③福島の復興、再生に向けた取組み情報を発信しています。現在、理事長の黒澤さんと事務局長の関根さんの2人で頑張っている。

特に、被災地視察の旅行企画、教育旅行（修学旅行）の受入、などに取り組んでいるところです。

兵庫県からは県立吉川高校が今年1月「震災学習とウィンタースポーツ」に修学旅行で来られ、お世話したが、今、ことの是非について議論が再燃、伯仲しているそうです。そもそも、修学旅行の目的は、(a)震災学習を通じた人生や生きることの意味、人と人との絆を考える、(b)ウィンタースポーツと通じて努力して上達することの喜び、(c)集団生活での社会性醸成と友情、を挙げておられ、東北を選んだ理由も「実際に自分の目で見て、耳で聞き、肌で感じる」ことが、今後の生徒の人生に大きな影響を与えられる」とのことです。実際、私たち放送スタッフが2年前に現地を訪問した時も、報道など間接情報とは全く違った「全てを包括した現状」を肌で感じる事ができました。この歳になっても、一種のカルチャー・ショックでした。



関根文恵さん 黒澤文雄さん 中嶋

（感想）子供たちを心配する親御さんたちの心配も解りますが、正確な情報と知識の元に、実際に現地に赴き交流することの意義は、子供たちにとって、かけがえの無い貴重な経験、人生教訓を得る機会となったでしょう。「可愛い子には旅をさせ」を実践した生徒たちの勇気に免じて、親御さ

んたちの寛容なるご理解も期待したいですね。

### ③公益財団法人福島県産業振興センター企画管理部総務企画課長 高原秀夫さん

福島県の産業振興の一翼を担う中核的支援機関。特に中小企業の経営基盤の強化や経営の改新支援に加えて、東日本大震災及び原子力災害からの復興に向けて被災事業者の事業継続、再開の支援等、更には再生可能エネルギー関連産業など、新しい産業の集積と育成に向けて支援を行っている。

原発事故では直下の区域内の事業活動が休業を余儀なくされ、大いに活動が制限されている。避難前の地元で事業再開できたのが455社（元の約17%）。地元以外を含めて、県内で再開したのは約54%ではない。ただ、事故から3年半が過ぎ、避難先で事業を再開する事業者があり、帰還して地元再開を志向する経営者の意識が低迷をはじめているのは大きな懸念材料としています。

「福島県産業復興相談センター」を開設し、主に、被災からの復旧・復興を目指す事業者の二重ローン対策など資金繰りや債権買取支援、事業計画策定などで、専門家による相談を受け、経営上の問題点や具体的な課題の解決に向けてお手伝いをしている。

また、風力や太陽光とか、原子力発電に依存しない「再生可能エネルギーの福島」を軸に、関連産業の育成、集積に向けた取組みを始めています。



中嶋

高原秀夫さん

### (3) 福島県南相馬市 県立原町高校訪問

福島県南相馬市にある原町高校は、今年8月に先生1人、1年生の生徒さん2人が神戸を訪問し、人と防災未来センターを見学、FM わいわいでは須磨翔風高校、兵庫高校の生徒さんと交流し、放送にも出演した。このことが縁で、今回原町高校の生徒さんの生の声を聞くことが出来たものです。

出席頂いたのは、神戸を訪問した3人の他、先生1人、1年生の生徒さん7人を加えた合計11人でした。質問に答えて頂いた生徒さんの中から、いくつかその内容を取り上げます。

#### ①最初の質問は、今一番言いたい事は何ですか？

(録音音声)

- ・何でもよいから早く何か変えてほしい、何かを進めてほしい。除染は進まず、仮置き場もそのまま、仮設住宅の生活も何年も延ばされている。何か大きな事を大きいふうに変えてほしい。政府に文句をいいたいことです。どうしようもない問題とは思っているが、がらっとかえてほしい。
- ・父親の実家が漁師であるが、震災後漁が出来なくなった（試験操業のみ）。やる気をそがれているので、政府は漁が出来るようにしてほしい。
- ・2020年の東京オリンピックは復興の足を引っ張っている。オリンピックは被災者を元気づけるということにどう思いますかというアンケートがあった。まず復興に力を注ぐべきと思う。

その他の生徒さんの言われたことは、

- ・震災を通して、人が助け合うことは、大きなことと実感した。助け合い、思いやりを持って行動してほしい。震災時は支援物資をもらい、支援してもらったので、人にやさしくしたい。

#### ②3.11から学んだことはありますか？

- ・放射能のため地区ごとにまとまって避難する事があった。災害で初めて地域が団結、絆が大事である事を学んだ。避難先で支援物資をいただき、先方は余裕はないと思われたが、暖かく対応してもらえた。絆の大事さを初めて知った。
- ・地震から津波まで時間はあったが、お爺ちゃんは昔からここには津波は来ないと言って、家に戻り流されてしまった。これまで事例がない、昔から津波はないと言って、何もしないのはダメという事を学んだ。

### ③震災で将来の方向が変わりましたか？

- ・ 中学時代は、楽器のリペアをしたいと思っていた。震災で放射線に無知である事を知り、医療系に進むという方向に変わり、今は放射線技師を目指している。
- ・ 震災前は、将来について考えていなかったが、今は報道関係に進みたいと思っている。原発や従軍慰安婦で、叩かれている新聞社があり、原発事故について、マスコミが正確に報道していなかったため、正確に伝えたいと思っている。

### ④放射線、放射能について

- ・ 学校周辺の放射線レベルについて質問したが、中学の時、検査を沢山受けたが低かったなどの理由で、数値は気にしていないようである。しかし全く心配しないわけではないようです。
- ・ 日常、放射線レベルに対する感覚として、街中は大丈夫と思っている。南相馬では山の近くに紐を張っている所がある。街中では側溝などの、水のたまる所があり、そのような所は近づかないようにしている。数値で判断するのではなく、レベルの高そうな場所で判断しているそうです。
- ・ 漫画の、おいしんぼについては、全員が気にならないと発言。内容については、信じられない、福島を馬鹿にしている、言っている事が全く理解できないなどといった感想でした。南相馬での生活者として、低レベル放射線の影響は気にしなくなったそうです。

#### (録音音声)

- ・ 放射線は住んでいる人間にとって、安全とは言わないにしても気にしないと思っていて、感情論になっている。科学的論拠ではなく、ゼロでも心配な人は心配で、ストレスで鼻血が出たことと結び付けている。1  $\mu\text{Sv/h}$  以下であれば皆は大丈夫であろうと考えて生きている。科学的に大丈夫かどうかを置いておいて、生きていくために判断している。(先生)

### ⑤原発はもういらないですか？

生徒さん9人のうち「いる」と答えたのは2人、6人は「いらない」、1人は「停電がなければいらない」であった。

(感想) 以上は、原町高校の生徒さんの思いの一部を伺ったものです。出席頂いた生徒さん9人は、我々の質問に、元気に答えていただきました。1時間余りの短時間だったので、生徒さんの思いをくみ取るのは非常に難しいと思いました。しかし、話をしないよりしたほうが、若干の意志疎通の機会になったと思います。その意味で訪問を受け入れて頂いた原町高校の先生、生徒さんに御礼申し上げます。



(注) 原町高校は、2011年3月11日の震災直後から福島第一原発事故のため学校は閉鎖。5月～11月まで2つのサテライト校で勉強することになった。他校へ転校せざるを得ない生徒も沢山いた。福島第一原発事故からサテライト校での様子は、高校生の制作した映像を取り上げたNHKのホームページで見ることが出来ます。

NHK クローズアップ現代 子どもが語る大震災(1) 高校生が伝える福島  
[http://www.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail\\_3141.html](http://www.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail_3141.html)

## 2. ミュージック： I love you & I need you ふくしま (猪苗代湖ズ)

猪苗代湖ズは福島県で生まれ育ち、今は東京や横浜で暮らすミュージシャンとクリエイターの福島県人バンド。メンバーであるクリエイティブ・ディレクター 箭内道彦さんが、実行委員長を務めた『風とロック芋煮会』（2010年9月）を機に結成された。

「I love you & I need you ふくしま」は福島県の応援ソングです。



## 3. ゲストコーナー (2)：東北訪問 (和田幹司、中嶋邦弘、佃 由晃)

### (4) 郡山市 おだがいさま FM 吉田恵子さん、久保田彩乃さん訪問

福島第一原発の立地町、隣接町の避難先の一つである郡山市の仮設住宅内にある、おだがいさま FM を訪問し、吉田恵子さん、久保田彩乃さんにお話を伺いました。

臨時災害 FM 局は被災地に作られるが、おだがいさま FM は、避難させられているため郡山市に作られました。

#### ①仮設での生活について

- ・入居者は、480 世帯（約 800 人）。
- ・仮設に住んでいる人は、将来について、絶対帰ると思っている人は 11%、帰らないと決めている人は 50%、決めかねている人は 30% のだそうです。今後 2 年間は帰れない事はわかっているが、その後については誰もわからず、年の経過と共に、帰還しない人が増えているそうです。
- ・3 世帯同居が普通の世帯が、家族が離散しているので、年寄は家族の中での役割を失い、自分達だけの事になっている。
- ・精神的に目標が持てない、希望を持てないため、自殺者が多く、福島県は災害関連死は災害で亡くなった方を越えています。将来に希望を持てないために、目の前の希望を糧に生活されています。例えば、老人のスポーツ大会、湘南で 1000 人フラダンスに参加し、日頃はその練習に励んでおられます。



郡山市富田町若宮前 仮設住宅



久保田彩乃さん 吉田恵子さん

#### ②臨時災害放送局、おだがいさま FM について

- ・原発周辺地域から避難した住民が、避難先で臨時災害 FM を立ち上げたのは、富岡町のみです。
- ・希望した町民には、タブレット端末を渡しているのので、県外に避難している人も、タブレットから流れる福島言葉に接する事が出来るようになっています。
- ・おだがいさま FM は、郡山の方が沢山聞いてくれているそうです。放送を通じ、富岡町のことを郡山市民の方がわかってきて、被災者の気持ちもわかってもらえる、いい繋がりが出来ているそうです。

### ③今一番言いたいことについて：

#### (録音音声)

東京の人は、まだ仮設があるの、という人がいるようだ。大きな災害ではあったが過去の話と  
思っている人も多い。東京はオリンピックが始まるので、そちらを向いている。東北はオリンピック  
により、金、人、物、資材が必要になるので、復興が益々遅れるという不安がある。オリンピック  
招致の安倍首相、前猪瀬知事の「東京は安全です」発言、などからオリンピックは心から喜べない。  
地域性があり、神戸や新潟の震災を経験した皆さんはものすごく心配してくれるが、他地域では忘  
れられてきている。

### ④政府、行政に対する思いについて

#### (録音音声)

捨てられた(棄民)と感じている。福島は再生なくして日本の再生はないと言うが、その割に何  
もやってくれない、パフォーマンスと思う。富岡、大熊、双葉の除染はやっても無駄と皆言ってい  
る。無駄な所に金をかけなくてもいい、ごめんなさいしてくれればいいと思っている人は非常に多  
かった。今は除染が始まり、あきらめて何を言っても無駄だと思っている。除染が始まったと言う  
事はここで我慢を続けということと思っている。

他に吉田さんが言われた事は、

- ・政府の人は被災地に来て住民の所には来ない。本当の気持ちは分かっていないし、聞こうともし  
ていない。
- ・被災3県では、岩手、宮城は津波の被害が大きく、福島は内陸まで地震の影響が大きかった。岩  
手、宮城の復興は目に見えるが、福島の復興は殆ど見えない。
- ・今まで色々な所に行っていたが、前例がないで追い返された。しかし前例がない災害だったか  
ら新しい施策を作るようになってもらわないと困る。住民は変わって受け入れているのに、国や  
行政は何も変わらない。

### ⑤放射線についてどのように思っているか伺いました

#### (録音音声)

地元の方は政府を信用していない。モニタリングポストを設置する前に周辺を除染していたから。  
福島県では天気予報の最後に各地の線量率が放送されるがあの値はうそです。3~5倍の値と思っ  
ている。1 $\mu$ SV/h以下で毎日は0.23程度といわれている。前からそうであればいいが、事故後  
急に制限値が20mSV/hに引き上げられた。しかも1日8時間×その場所の線量率-日常の値(自  
然放射線)という計算になっている。都合のよい計算になっている気がする。

(感想) 以上は、おだがいさまFMの吉田恵子、久保田彩乃さんから伺ったお話の概要です。

吉田さんは、被災地以外の場所に臨時災害FM局を立ち上げるという、難しい課題を克服して来られ  
ました。お話の内容は極めて明快で、福島の復興を本気で応援、サポートしない国の態度に注文をつ  
けておられました。

仮設に住む、特に高齢者が、帰還のめどがたたず、将来に希望をもてないため、身近な希望をみつ  
け、それを糧に過ごされている事を知りました。岩手、宮城に比べ目に見える復興の姿がみえない福  
島、原発災害が及ぼした影響の大きさを痛感しました。

(注) おだがいさまFMの開局については下記動画をご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=DzLzChTlj5A>

### (5) 南相馬市で伺った事

#### ①小高区行政長 今野由喜さん

今野由喜さんはNPOががんばっぺ南相馬を立ち上げ、仮設4ヶ所で癒しのサロンを運営されていま  
す。お年寄りの女性は、毎日小物を毎日作って楽しんでいます。作っている「ふくろう」は「福が  
来る」ようにという意味。「9匹のサル」は「苦難去る」と命名しているそうです。

サロンに対し求められる内容が、当初と今では変わってきている。当初は仮設内で繋がりがなかつ  
たが、今はある程度コミュニティが出来てきた。

仮設内自治会も機能してきた。

今は生活不活発病で、去年までは歩けたが、今は歩けない、引きこもり、アルコール依存症、孤独死が多いため、お年寄りに対しては、基礎体力を維持し低下させない、ボケないようにサポートすること、そして自立して出て行く人へのサポートに重点が移っているそうです。



今野由喜さん

中嶋

## ②臨時災害FM ひばりFM 今野聡さん

放射線に関する認識の違いについて、県外に出かけた時に次のような経験をしたそうです。

岡山で会った人が、福島から帰ったら鼻血が出たと言った。福島で緊張していたのではと思った。福島は安全な場所と呼びかけるつもりはないが、危険な場所とも思っていない。

神戸に行った時、小学校で $0.12\mu\text{SV}/\text{h}$ あり、校庭が $0.08\sim 0.09$ で室内の方が高く、建材が原因と思うと言うと、原発からの風があの時流れてきていたと言った人がいた。

倉敷で駅前のホテルの10階に泊まった時、ホテル内は $0.16$ で、今野さんの福島の家と同じくらい高いくらいで、関西は高目と言うと、福島は原発の汚染で高く、倉敷は自然放射線の高さで、中身は違うだろと言われた。福島の家では、これくらいのレベルですということ言いたかったただけだが、相手はムツとしていた。

(感想)放射線、放射能については福島県の方は勉強されているので知識が身につけてきているが、他の国民はそのような機会がないので、科学的に理解をする機会が必要と思われる。

## (6) 東北訪問のまとめ

### ①福島は変わってきていると感じているか

原町高校、おだがいさまFmの方は殆ど変わっていないと思っている。生徒さんは何でもよいから見える形で大きく変わってほしいと言っていた。

### ②仮設の生活と生き甲斐

原発避難で将来の希望が持てない高齢者に対し、どのようなケアをしていくかが大きな課題になっている。

### ③放射線に対する考え

放射線は住んでいる人間にとって、安全とは言わないにしても気にしない。

### ④政府に対する思い

住民の思いと政府、行政の考えには大きなずれがある。

東日本全体では復興の方向に進んでいるが、福島だけは今からという感じで、阪神大震災との比較では、半年～1年後の状態に見える。このため先が見えない、何も変わらないという不満に繋がっている(中嶋)。

今野由喜さんは、過去を振り返らず、頼らずに、自分からやるという覚悟を決め、いつまでも助けてもらえる思わないようにしなければ前に進まないと言っておられた。福島の問題は我々にとってどうしたらよいのかわからない問題である。気仙沼は波止場も出来、仕事も増え先が見えるようになったきたと思える(和田)。福島と他県のギャップが大きいことを知らなかった(さくら)。

### 【原町高校の生徒さんが関西に来た時に、関西人について感じたことについての音声あり】

最近TV、ラジオで福島の話が殆ど出てこない。今回の放送を聞くと国は、国をあげて復興に取り組みないといけないと思う。気の毒すぎる。おとなしい県民性とか関係なく、自分が福島に住んでいたら、オリンピックなんて何を考えているのと言わずにおれない。これではいけない、申し訳ないという事を強く思った(さくら)。

(参考) 訪問先の写真

1. 飯館村は除染作業の真最中 (2014.10.28)



2. 南相馬市小高区は震災直後の状態がそのまま残っている (2014.10.28)



小高駅前震災当日のまま



1階は津波で破壊



基礎だけ残った



基礎だけ残った



### 3. 仮設では小物作りが生き甲斐



### 4. 2014年9月15日 6号線開通（富岡—双葉間 14.1km）

東京—仙台間を結ぶ国道6号線は、太平洋岸を通るため、福島原発事故で原発周辺の富岡町、浪江町、双葉町の帰宅困難区域にかかっている14.1kmが、許可車以外は通行禁止であった。2014年9月15日に、車のみ通行可能となり、6号線は全線開通した。ただし徒歩・自転車・バイク不可、窓を閉めた車のみとなっている。区間内の平均空間放射線量は毎時3.8マイクロシーベルト。最大値は大熊町内の毎時17.3マイクロシーベルトである。1回通行した時の被曝線量は1.2 $\mu$ SVで、X線検査（60 $\mu$ SV）で50分の1。

帰宅困難区域に入ると、脇道の入り口は全てバリケードで閉鎖され、許可車の出入りをチェックするガードマンが監視している。また、国道に面した民家の玄関も、立ち入り出来ないようバリケードで閉鎖されている。6号線沿いの帰宅困難区域は勿論の事、居住制限区域、避難指示準備区域には、震災発生時のままガレキが手つかずのまま放置されているところがまだたくさん残されている。

開通した6号線（2014.10.29）



これより帰宅困難区域



左は福島第一原発



福島第一原発



侵入防止バリケード



侵入防止バリケード



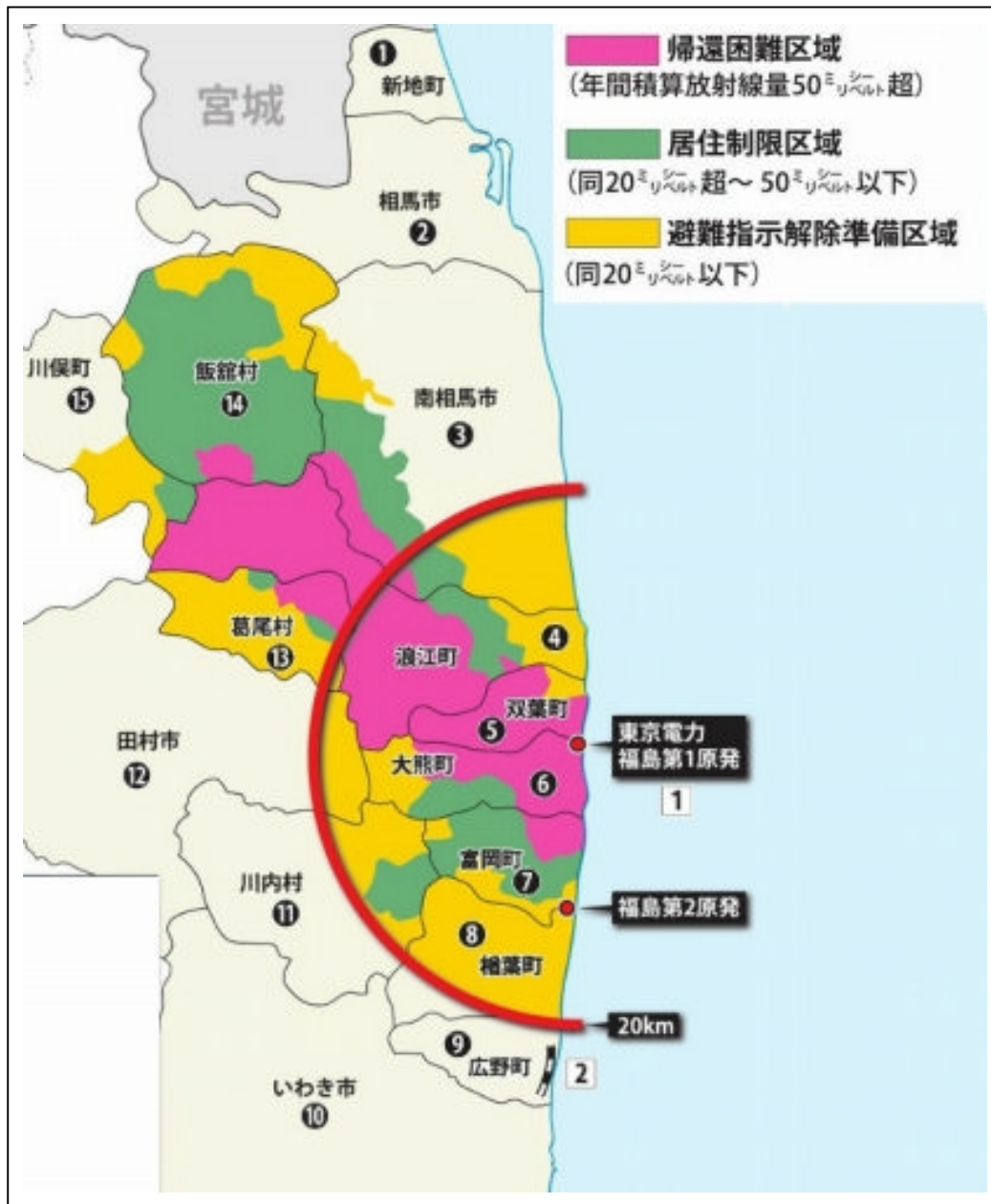
震災発生時と全く変わらず



東京からは竜田駅まで開通



竜田駅は線路上に通路を設置



ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>